



三菱パイプ用ファン(人感センサー付) (トイレ・洗面所用)

形名	グリル形状	グリル色調	電源仕様	機能	電気式シャッター付
V-08PA7	角形格子グリル	ホワイト	電源プラグ	停止タイプ	—
V-08PAD7	角形格子グリル	ホワイト	速結端子	停止タイプ	●
V-08PAS7	角形格子グリル	ホワイト	電源プラグ	停止タイプ	●
V-08PASD7	角形格子グリル	ホワイト	速結端子	停止タイプ	●
V-08PALD7	角形格子グリル	ホワイト	速結端子	24時間換気タイプ	—
V-12PAS7	角形格子グリル	ホワイト	電源プラグ	停止タイプ	●
V-12PASD7	角形格子グリル	ホワイト	速結端子	停止タイプ	●
V-12PALD7	角形格子グリル	ホワイト	速結端子	24時間換気タイプ	—

据付説明書 販売店・工事店様用

据付けを始める前に、誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を梱包外側の「警告」「注意」で説明しておりますので、この説明書とともによくお読みになり、正しく安全に据付けてください。

据付終了後は、必ずこの説明書をお客様にお渡しください。

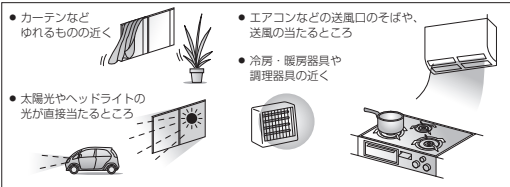
- 据付け、壁穴工事はお買上げの販売店・専門の工事店様が実施してください。(間違った据付け、工事は、故障や事故の原因になります)
- 電気工事は電気工事士の方が実施してください。
- 形名をよく確認し用途にあった場所に据付けてください。それ以外の用途には使用しないでください。(故障の原因になります)
- 形名によって据付方法が異なりますので、予めご使用の形名をご確認ください。
- 直接屋外に排気する場合は、雨水浸入防止のためシステム部材(屋外フードなど)を据付けてください。
- 雨水浸入防止のため外風の吹き付けの強い場所では風圧シャッター付深形フードを据付けることをおススメします。
- 接続パイプは市販品の塩化ビニル管または鋼板管のいずれかをご用意ください。

形名	適用パイプ	付属部品
V-08PA7		ホネジ2本
V-08PAD7	塩化ビニル管	
V-08PAS7	VP、VU(呼び径100mm)	
V-08PASD7	鋼板管(内径100mm)	
V-08PALD7		
V-12PAS7	塩化ビニル管	
V-12PASD7	VP、VU(呼び径150mm)	
V-12PALD7	鋼板管(内径150mm)	

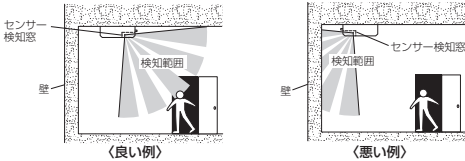
1.安全のために必ず守ること ⇒梱包箱をご確認ください

2.据付前のお願

- 高温(40℃以上)になるところに据付けしないでください。(故障の原因になります)
- 塩害、温泉害の発生している場所には据付けしないでください。(故障の原因になります)
- 燃焼機器の排気口の近くには据付けしないでください。(燃焼機器から排出された排気ガスが含まれた外気が、強風のときなどに室内に侵入すると、異臭などの原因になります)
- 以下のようなところには据付けしないでください。(誤動作の原因になります)



- 天井据付の場合、センサー検知窓を壁面側に向けて据付けしないでください。(検知不良の原因になります)



- システム部材(屋外フードなど)は壁厚にあったものを選んでください。(壁厚により据付けられないものがあります)
- 天井・壁板は、振動・共鳴音防止のため強度のあるものを据付けてください。
- アルミフレキシブルダクトへの据付けはしないでください。(振動の原因になります)
- 効果的な換気を行うために給気口を設けてください。

3.各部のなまえと外形寸法図

- 各部のなまえ ⇒裏面の取扱説明書の「3.各部のなまえ」をご確認ください
- 外形寸法図 ⇒梱包箱をご確認ください

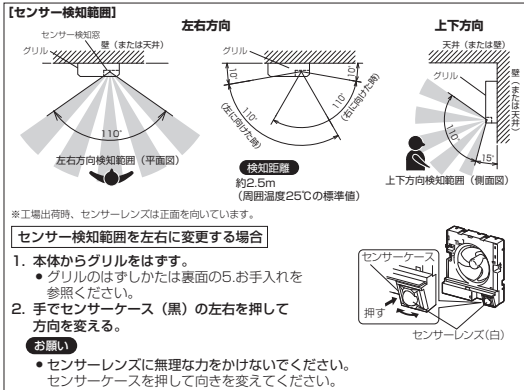
4.据付方法

1 据付前の準備

- 通常の入室の動作で人体を検知するよう、下記の検知範囲を参考に適切な据付位置を選定してください。

センサー検知範囲

センサーの特性上、検知範囲(下図 部)を横切る動きは検知しやすく、センサーに真っすぐ近づくと動きは検知しにくい場合があります。センサーレンズの向きは左右に変更することができますので、検知しにくい場合は検知しやすい向きに変更してください。



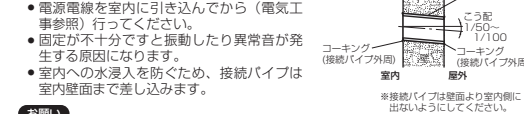
壁据付けの場合(壁穴への接続パイプの固定)

1. 据付場所を決めて壁穴をあける。
 - 右図の壁穴位置をご確認ください。
 - 接続パイプには塩化ビニル管の薄肉(VU)と厚肉(VP)管および鋼板管があります。壁厚に応じて長さを決めてください。
 - 必ず床面より1800mm以上のメンテナンス可能な位置に据付けてください。

※天井、壁、または障害物(コンセント、カーテンレールなど)

- 据付位置は右上図の位置になるようにしてください。右上図の寸法より小さくなりますと製品が据付けられない場合やメンテナンスができなくなる場合、運転スイッチの切替えができなくなる場合があります。
- 吹き抜けなどの高い位置には据付けしないでください。(検知不良の原因となります)

2. 壁穴に接続パイプを確実に固定する。接続パイプと壁のすき間はコーキング処理を施します。
 - 電源電線を室内に引き込んでから(電気工事参照)行ってください。
 - 固定が不十分ですと振動したり異常音が発生する原因になります。
 - 室内への水浸入を防ぐため、接続パイプは室内壁面まで差し込みます。



- 接続パイプは雨水の浸入を防ぐため屋外側に下りこう配をつき、固定してください。

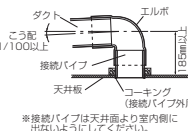
天井据付けの場合(野線工事とダクト工事)

1. 下図のように野線工をし、ダクト工事をする。
 - 補助野線
 - タイプ A B
 - V-08タイプ □120 □180
 - V-12タイプ □170 □230

- 接続パイプが壁から右上図の位置になるようダクト工事を行ってください。右上図の寸法より小さくなりますと製品が据付けられない場合やメンテナンスができなくなる場合、運転スイッチの切替えができなくなる場合があります。

2. ダクトの中心から天井板まで185mm以上離して天井板を張る。
3. エルボと天井板の間は接続パイプを接続する。
4. 接続パイプと天井のすき間はコーキング処理を施す。

- ダクトは雨水の浸入を防ぐため屋外側に1/100以上の下りこう配をつけてください。
- 天井板に強度がないときは補強材を入れてください。



2 電気工事

電源電線の接続・電気工事などは、必ず専門の工事店へご依頼ください。

- 市販のスイッチを使用される場合は適切なスイッチを選定してご接続してください。
- 当社製以外の電子式スイッチ(半導体制御による速調スイッチ・タイマーなど)をご使用の場合は組合せ上、不具合が発生するおそれがありますので使用の際はあらかじめご確認ください。

警告

- 交流100Vを使用する直流や交流100V以外を使用すると感電の原因。
- 電気工事は電気工事士の方が「電気設備に関する技術基準を定める省令(及び同解説)」及び「内線規程」に従って安全・確実に行う接続不良や誤った電気工事は、火災・感電の原因。
- 電気工事は電気工事店に依頼する感電の原因。

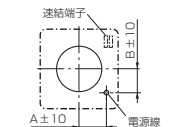
注意

電源プラグタイプの場合

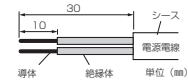
内線規程に基づくコンセントを室内の換気扇の近くに設ける。

速結端子タイプの場合

1. 電源電線を右図の位置から室内に引き込む。
 - 電源電線はVVfφ1.6またはφ2.0 2芯をご使用ください。



タイプ	A	B
V-08タイプ	60	50
V-12タイプ	75	55



2. 電源電線の先端を右図に合わせて皮むきする。
 - 端子部への水の浸入・ほこりの浸入を防ぐため皮むき寸法を必ず守ってください。

3 本体の据付け(壁据付け・天井据付けともに同様の据付けかたです)

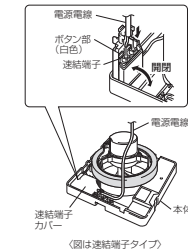
1. 本体からグリルをはずす。
2. 結線をする。(電気工事は電気工事士の方が実施してください)

速結端子タイプの場合

- ①速結端子カバーを右図のように開ける。
- ②電源電線を速結端子に差し込む。
- ③速結端子カバーを元通り閉じ確実に固定する。

お願い

- 電源電線は確実に速結端子に差し込みます。速結端子より導体が出ないようにしてください。
- 電源電線を軽く引いて速結端子に確実に固定されていることを確認してください。
- 電源電線をかみ込まないように本体面に密着させて配線してください。
- 電源電線を速結端子よりはずす場合は、ボタン部(白色)を押しながら電源電線を引き抜いてください。

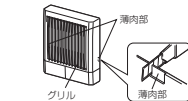


電源プラグタイプの場合

- 電源プラグを左右から出す場合グリルの薄肉部を切り欠いてください。本体上部の切り欠き部は市販のテープなどでふさいでください。

お願い

- 電源コードをかみ込まないように本体、グリルの切り欠き部から引き出してください。



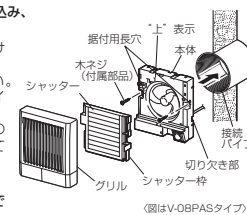
3. 本体の上下を確認して接続パイプに差し込み、付属のホネジ2本で本体を固定する。

- 本体の刻印「上」を上側にして据付けてください。
- 左右の据付用長穴をご使用ください。必要に応じて上下部ネジ(V-12タイプのみ)をご使用ください。
- 石膏ボードに据付ける場合は、市販の石膏ボード用アンカーを必ず使用してください。

- インパクトドライバーは使用しないでください。本体の固定部分が破損するおそれがあります。
- 本体を接続パイプに差し込むとき、シャッター中央部(電気式シャッター付タイプ)およびセンサーレンズに力を加えないでください。(シャッター開閉不良・センサー検知不良の原因になります)

4. グリルを本体に据付ける。
 - グリルの方向を確認して、本体に据付けてください。

5. 以上の据付けが終了した後、本体とグリル、シャッター枠が確実に据付けられているか確認する。



(図はV-08PASタイプ)

5. 試運転

- 運転スイッチを「自動」に設定し、センサーが人の動きを検知するかを確認してください。
 - ※電源を投入する度に約1分間は強制運転しますので、電源投入後1分以上経過してから確認してください。
 - ※人の動きを検知すると運転ランプが2回点滅します。
- 製品が運転・停止(電気式シャッター付タイプはシャッターが開閉)するかを確認してください。
- 異常な音・振動などがないかを確認してください。

お願い

- 検知しにくい場合は、センサーレンズの向きを調整し、再度確認してください。センサーレンズの向きの変更方法は4.据付方法の「センサー検知範囲を左右に変更する場合」を参照してください。